

【 主日アポリティキオン 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
 天在者樂 地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
 悦 主 其 臂 力 顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復  
 死 以 死 滅

くかつのはじめとなり、われらをぢごく  
 活 首 我 等 地 獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな  
 腹 救 世 界 大

るあわれみをたまいたればなり。  
 憐 賜

【 三歌經のコンダック 第3調 】

こうえいはちちとこ と せいしんにき  
 光 榮 父 子 聖 神 歸

す。

しゅよ、もろもろのつみおよびむちのしわざに  
 主 諸 罪 及 無 知 行 爲

ていたくよわりたるわがたましいを、む昔  
 大 弱 我 靈

かしなんしゃをおこししごとく、なんぢのかみ  
 難 者 起 如 爾 神

た る め い を も っ て お こ し た ま え 、 わ が す く  
 命 以 起 給 我 救  
 わ れ て な ん ぢ に よ ば ん た め な り 、 じ ん じ  
 爾 呼 爲 仁 慈  
 な る ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は な ん ぢ に  
 光 榮 爾 ぢ に  
 き ず け ます 。

【 パスハのコンダック 第8調 】

い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。  
 今 何 時 世 世  
 し せ ぎ る ハ リ ス ト ス か み よ 、 な ん ぢ は は か に く 降  
 死 神 爾 墓 降  
 だ れ ど も ぢ ご く の ち か ら を や ぶ り 、 か 勝  
 地 獄 力 破 勝  
 つ も の と し て ふ く か つ せ り 、 け い こ う  
 者 復 活 携 香  
 ぢ よ に よ ろ こ べ よ と い い 、 な ん ぢ の し と に へ 平  
 女 慶 言 爾 使 徒 平  
 い あ ん を あ た え 、 ほ ろ び し も の に ふ く  
 安 與 亡 者 復  
 か 活 つ を た ま え り 。  
 活 賜 え り 。

【 聖三の歌 】

代禱) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>けいけん</sup>敬虔なる<sup>もの</sup>者を<sup>すく</sup>救い、<sup>およ</sup>及び<sup>われら</sup>我等に<sup>き</sup>聆き<sup>たま</sup>給え、



しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
主 敬 虔 者 救 及 我  
らにききたまえ。  
等 聆 給

代禱) <sup>よよ</sup>世々に、



アミン。



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖 神 聖 勇 毅 聖  
じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
常 生 者 我 等 を 憐  
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
聖 神 聖 勇 毅 聖  
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
常 生 者 我 等 を 憐  
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
聖 神 聖 勇 毅  
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
聖 常 生 者 我 等 を 憐  
れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
光 榮 父 子 と 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。  
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を あ わ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う  
聖 神 聖 勇

き、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を  
毅 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。

【 提綱 (プロキメン) 第1調 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>しゅ</sup> プロキメン、 <sup>われらなんぢ</sup> 主よ、 <sup>たの</sup> 我等 <sup>ごと</sup> 爾を頼むが如く、 <sup>なんぢ</sup> 爾の <sup>あわれみ</sup> 憐を <sup>われら</sup> 我等に <sup>た</sup> 垂 <sup>たま</sup> 給え、

しゅ よ、 わ れ ら な ん ぢ を た の む が ご と く、  
主 我 等 爾 頼 如

な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま  
爾 憐 我 等 垂 給

え 。

誦經) <sup>ぎじん</sup> 義人よ、 <sup>しゅ</sup> 主の <sup>ため</sup> 爲に <sup>よろこ</sup> 喜べ、 <sup>さんえい</sup> 讚榮するは <sup>ぎしゃ</sup> 義者に <sup>かな</sup> 適う、

しゅ よ、 わ れ ら な ん ぢ を た の む が ご と く、  
主 我 等 爾 頼 如

な んぢの あわれ みをわれらにた れたま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え。

誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>われらなんぢ</sup>我等爾<sup>たの</sup>を頼むが如く、<sup>ごと</sup>

な んぢの あわれ みをわれらにた れたま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え。

【 使徒經 (アポストロス) 23 端 聖使徒行實 9 章 32 節~43 節 】

代禱) <sup>えいち</sup>睿智、

誦經) <sup>せいしとこうじつ</sup>聖使徒行實の讀、<sup>よみ</sup>

代禱) <sup>つつし</sup>謹みて聽くべし、<sup>き</sup>

誦經) <sup>か</sup>彼の<sup>ひ</sup>日、<sup>あまね</sup>ペトル<sup>しよほう</sup>徧く<sup>ゆ</sup>諸方<sup>お</sup>を往きて、<sup>せいと</sup>リッダに居る<sup>いた</sup>聖徒にも<sup>かしこ</sup>詣りし<sup>おい</sup>ことあり。彼處に於て彼

<sup>いちにん</sup>は一人、<sup>な</sup>名はエネイ、<sup>ちゆうぶう</sup>癱瘋<sup>うれ</sup>を患いて八年間<sup>はちねんかんとこ</sup>床に臥せる<sup>ふ</sup>者に<sup>もの</sup>遇えり。ペトル<sup>あ</sup>彼に<sup>かれ</sup>謂えり、

エネイよ、<sup>なんぢ</sup>イイスス<sup>いや</sup>ハリストス<sup>お</sup>爾<sup>なんぢ</sup>を愈す、<sup>どこ</sup>起きて、<sup>おさ</sup>爾の<sup>かれた</sup>床を<sup>ただち</sup>治めよ、<sup>お</sup>彼直に<sup>お</sup>起きたり。

リッダ<sup>およ</sup>及び<sup>お</sup>サロンに居る<sup>もの</sup>者は、<sup>みな</sup>皆<sup>かれ</sup>彼を見て、<sup>み</sup>主に<sup>しゅ</sup>歸せり。イオッピヤに<sup>き</sup>一の<sup>ひとり</sup>女徒、<sup>な</sup>名はタ

ヴィファ、<sup>やく</sup>譯すれば<sup>しか</sup>鹿と<sup>い</sup>云う<sup>もの</sup>者あり、<sup>かれ</sup>彼は<sup>ひろ</sup>廣く<sup>ぜんじ</sup>善事を<sup>おこな</sup>行い、<sup>ほど</sup>施濟<sup>し</sup>を爲せり。適<sup>な</sup>其日<sup>たまたま</sup>その<sup>ひ</sup>

に<sup>やし</sup>病みて<sup>かれ</sup>死せり。彼を<sup>あら</sup>洗いて、<sup>たかどの</sup>樓<sup>お</sup>に置きたり。リッダは<sup>ちか</sup>イオッピヤに<sup>よ</sup>近きに<sup>もんと</sup>因り、<sup>お</sup>門徒は

ペトル<sup>かしこ</sup>彼處に<sup>あ</sup>在りと<sup>き</sup>聞きて、<sup>にん</sup>二人を<sup>かれ</sup>彼に<sup>つかわ</sup>遣して、<sup>そのおそな</sup>其<sup>かれら</sup>遅<sup>きた</sup>わらずして<sup>もと</sup>彼等に<sup>お</sup>來らん<sup>もと</sup>ことを求

めたり。ペトル<sup>た</sup>起ちて、<sup>これ</sup>之と<sup>とも</sup>偕に<sup>ゆ</sup>往けり、<sup>いた</sup>至るに<sup>およ</sup>及びて、<sup>かれ</sup>彼を<sup>ひ</sup>引きて、<sup>たかどの</sup>樓<sup>のぼ</sup>に登らせ、<sup>やめ</sup>嫠婦

<sup>みな</sup>皆<sup>かれ</sup>哭きて、<sup>かたわら</sup>彼の<sup>た</sup>側<sup>しか</sup>に<sup>かれら</sup>立ち、<sup>とも</sup>鹿の<sup>あ</sup>彼等と<sup>つく</sup>偕に<sup>うわぎ</sup>在りしに<sup>したぎ</sup>作りたる<sup>しめ</sup>上衣<sup>しめ</sup>下衣<sup>しめ</sup>を示せり。ペト

ル<sup>かれら</sup>彼等を<sup>ことごと</sup>悉く<sup>そと</sup>外に出し、<sup>い</sup>膝<sup>ひざ</sup>を<sup>かが</sup>屈めて<sup>いの</sup>禱れり、<sup>しこう</sup>而して<sup>しかばね</sup>屍<sup>むか</sup>に向いて<sup>い</sup>曰えり、<sup>い</sup>タヴィフ

ア<sup>お</sup>起きよ。彼<sup>かれ</sup>其<sup>その</sup>目を<sup>め</sup>啓き、<sup>ひら</sup>ペトル<sup>み</sup>を見て<sup>ぎ</sup>坐せり。ペトル<sup>これ</sup>之に<sup>て</sup>手を<sup>さづ</sup>授けて、<sup>これ</sup>之を<sup>おこ</sup>起し、<sup>せいと</sup>聖徒<sup>およ</sup>及

やもめ め これ い もの そのまえ た こ ことぜん し ところ  
び嫠婦を召して、之を活ける者として其前に立てたり。此の事全イオッピーヤの知る所とな

りて、<sup>おお</sup>多くの者<sup>ものしゆ</sup>主<sup>しん</sup>を信ぜり。

\*\*\*\*\*

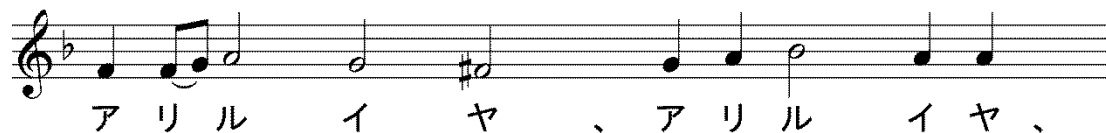
(比較用 口語訳) ペテロは方々をめぐり歩いたが、ルダに住む聖徒たちのところへも下って行った。そして、そこで、八年間も床についているアイネヤという人に会った。この人は中風であった。ペテロが彼に言った、「アイネヤよ、イエス・キリストがあなたをいやして下さるのだ。起きなさい。そして床を取りあげなさい」。すると、彼はただちに起きあがった。ルダとサロンに住む人たちは、みなそれを見て、主に帰依した。ヨッパにタビタ(これを訳すと、ドルカス、すなわち、かもしか)という女弟子がいた。数々のよい働きや施しをしていた婦人であった。ところが、そのころ病気になるて死んだので、人々はそのからだを洗って、屋上の間に安置した。ルダはヨッパに近かったので、弟子たちはペテロがルダにきていると聞き、ふたりの者を彼のもとにやって、「どうぞ、早くこちらにおいで下さい」と頼んだ。そこでペテロは立って、ふたりの者に連れられてきた。彼が着くとすぐ、屋上の間に案内された。すると、やもめたちがみんな彼のそばに寄ってきて、ドルカスが生前つくった下着や上着の数々を、泣きながら見せるのであった。ペテロはみんなの者を外に出し、ひざまずいて祈った。それから死体の方に向いて、「タビタよ、起きなさい」と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起きなおった。ペテロは彼女に手をかして立たせた。それから、聖徒たちや、やもめたちを呼び入れて、彼女が生きかえているのを見せた。このことがヨッパ中に知れわたり、多くの人々が主を信じた。

\*\*\*\*\*

代禱) <sup>えいち</sup>睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第5調 】



誦經) <sup>しゆ</sup>主よ、<sup>われなが</sup>我永<sup>なんぢ</sup>く爾<sup>じれん</sup>の慈憐<sup>うた</sup>を歌い、<sup>わ</sup>我が口<sup>くち</sup>を以<sup>もつ</sup>て<sup>よよ</sup>世世<sup>なんぢ</sup>に爾<sup>しんじつ</sup>の眞實<sup>つた</sup>を傳えん、



誦經) <sup>けだしわれい</sup> 蓋 <sup>じれん</sup> 我言、<sup>なが</sup> 慈慈は永く<sup>た</sup> 建てられたり、<sup>なんぢ</sup> 爾は<sup>なんぢ</sup> 爾の<sup>しんじつ</sup> 眞實を<sup>てん</sup> 天に<sup>かた</sup> 固めたり、



【 福音經 (エヴァンゲリオン) イオアン福音書 14 端 5 章 1 節~15 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>でん</sup> イオアン傳の<sup>せいふくいんけい</sup> 聖福音經の<sup>よみ</sup> 讀、



代禱) <sup>つつし</sup> 謹 <sup>き</sup> みて聽くべし、

誦經) <sup>か</sup> 彼の<sup>とき</sup> 時、<sup>のぼ</sup> イイスス <sup>ひつじ</sup> イエルサリムに <sup>もん</sup> 上れり。<sup>かたわら</sup> イエルサリムに <sup>いけ</sup> 羊の門の <sup>い</sup> 側に <sup>い</sup> 池あり、<sup>エ</sup> エ

<sup>ことば</sup> ウレイの <sup>い</sup> 言に <sup>これ</sup> ヴィフェズダと <sup>いつつ</sup> 曰う。<sup>ろう</sup> 之に <sup>こうち</sup> 傍いて <sup>おお</sup> 五の廊あり、<sup>びょうしゃ</sup> 此の中に <sup>めしい</sup> 多くの病者、<sup>あしなえ</sup> 瞽者、<sup>ちか</sup> 血 <sup>ものふ</sup> 枯るる者 <sup>みづ</sup> 臥して、<sup>うご</sup> 水の <sup>ま</sup> 動く <sup>けだししゅ</sup> を <sup>つかい</sup> 待てり。<sup>とき</sup> 蓋 <sup>いけ</sup> 主の <sup>くだ</sup> 使時 <sup>みづ</sup> ありて <sup>い</sup> 池に <sup>くだ</sup> 下りて、<sup>みづ</sup> 水を

<sup>うご</sup> 動かせり、<sup>みづ</sup> 水の <sup>うご</sup> 動く <sup>のちま</sup> 後 <sup>いけ</sup> 先 <sup>い</sup> づ <sup>もの</sup> 池に <sup>なに</sup> 入る者 <sup>やまい</sup> は、<sup>うれ</sup> 何の病 <sup>ろん</sup> を <sup>い</sup> 患 <sup>え</sup> うるに <sup>え</sup> 論 <sup>え</sup> なく、<sup>え</sup> 愈 <sup>え</sup> ゆる <sup>え</sup> を <sup>え</sup> 得 <sup>え</sup> たり。

<sup>うご</sup> 動かせり、<sup>みづ</sup> 水の <sup>うご</sup> 動く <sup>のちま</sup> 後 <sup>いけ</sup> 先 <sup>い</sup> づ <sup>もの</sup> 池に <sup>なに</sup> 入る者 <sup>やまい</sup> は、<sup>うれ</sup> 何の病 <sup>ろん</sup> を <sup>い</sup> 患 <sup>え</sup> うるに <sup>え</sup> 論 <sup>え</sup> なく、<sup>え</sup> 愈 <sup>え</sup> ゆる <sup>え</sup> を <sup>え</sup> 得 <sup>え</sup> たり。

<sup>かしこ</sup> 彼處に <sup>ひとり</sup> 一人 <sup>さんじゅう</sup> 三十八年 <sup>はちねん</sup> 病 <sup>うれ</sup> を <sup>もの</sup> 患 <sup>かれ</sup> うる者 <sup>ふ</sup> ありき。<sup>み</sup> イイスス <sup>そのこれ</sup> 彼が <sup>うれ</sup> 臥せる <sup>うれ</sup> を <sup>うれ</sup> 見、<sup>うれ</sup> 其 <sup>うれ</sup> 之 <sup>うれ</sup> を <sup>うれ</sup> 患 <sup>うれ</sup> うる

<sup>こと</sup> こと <sup>ひさ</sup> 已に <sup>し</sup> 久 <sup>し</sup> し <sup>し</sup> き <sup>し</sup> を <sup>し</sup> 知 <sup>し</sup> りて、<sup>かれ</sup> 彼 <sup>い</sup> に <sup>なんぢ</sup> 謂 <sup>い</sup> う <sup>い</sup> 爾 <sup>い</sup> 愈 <sup>い</sup> えん <sup>い</sup> こと <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 欲 <sup>い</sup> する <sup>い</sup> か。<sup>い</sup> 病 <sup>い</sup> 者 <sup>い</sup> 答 <sup>い</sup> えて <sup>い</sup> 曰 <sup>い</sup> えり、<sup>い</sup> 主 <sup>い</sup> よ、

<sup>しか</sup> 然 <sup>ただ</sup> り、<sup>みづ</sup> 但 <sup>うご</sup> 水 <sup>とき</sup> の <sup>われ</sup> 動 <sup>たす</sup> く <sup>いけ</sup> 時、<sup>くだ</sup> 我 <sup>ひと</sup> を <sup>い</sup> 扶 <sup>い</sup> けて、<sup>い</sup> 池 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 下 <sup>い</sup> す <sup>い</sup> 人 <sup>い</sup> な <sup>い</sup> し、<sup>い</sup> 我 <sup>い</sup> が <sup>い</sup> 來 <sup>い</sup> る <sup>い</sup> 時 <sup>い</sup> は、<sup>い</sup> 他 <sup>い</sup> 人 <sup>い</sup> 我 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 先 <sup>い</sup> だ

<sup>くだ</sup> ち <sup>い</sup> て <sup>い</sup> 下 <sup>い</sup> る。<sup>い</sup> イ <sup>い</sup> ス <sup>い</sup> ス <sup>い</sup> 彼 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 謂 <sup>い</sup> う、<sup>い</sup> 起 <sup>い</sup> き <sup>い</sup> て、<sup>い</sup> 爾 <sup>い</sup> の <sup>い</sup> 牀 <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 取 <sup>い</sup> り <sup>い</sup> て <sup>い</sup> 行 <sup>い</sup> け。<sup>い</sup> 其 <sup>い</sup> 人 <sup>い</sup> 直 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 愈 <sup>い</sup> え、<sup>い</sup> 其 <sup>い</sup> 牀 <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 取

<sup>ゆ</sup> り <sup>い</sup> て <sup>い</sup> 行 <sup>い</sup> けり、<sup>い</sup> 是 <sup>い</sup> の <sup>い</sup> 日 <sup>い</sup> は <sup>い</sup> 安 <sup>い</sup> 息 <sup>い</sup> 日 <sup>い</sup> な <sup>い</sup> り。<sup>い</sup> 故 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> イ <sup>い</sup> ウ <sup>い</sup> デ <sup>い</sup> ヤ <sup>い</sup> 人 <sup>い</sup> 愈 <sup>い</sup> され <sup>い</sup> し <sup>い</sup> 者 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 謂 <sup>い</sup> えり、<sup>い</sup> 安 <sup>い</sup> 息 <sup>い</sup> 日 <sup>い</sup> な <sup>い</sup> り、<sup>い</sup> 爾 <sup>い</sup> 牀

<sup>と</sup> を <sup>い</sup> 取 <sup>い</sup> る <sup>い</sup> は <sup>い</sup> 宜 <sup>い</sup> し <sup>い</sup> か <sup>い</sup> ら <sup>い</sup> ず。<sup>い</sup> 彼 <sup>い</sup> 答 <sup>い</sup> えて <sup>い</sup> 曰 <sup>い</sup> えり、<sup>い</sup> 我 <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 愈 <sup>い</sup> し <sup>い</sup> し <sup>い</sup> 者 <sup>い</sup> は、<sup>い</sup> 我 <sup>い</sup> に <sup>い</sup> 爾 <sup>い</sup> の <sup>い</sup> 牀 <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 取 <sup>い</sup> り <sup>い</sup> て <sup>い</sup> 行 <sup>い</sup> け <sup>い</sup> と <sup>い</sup> 言 <sup>い</sup> え

<sup>かれら</sup> り。<sup>い</sup> 彼 <sup>い</sup> 等 <sup>い</sup> 問 <sup>い</sup> えり、<sup>い</sup> 爾 <sup>い</sup> に、<sup>い</sup> 牀 <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 取 <sup>い</sup> り <sup>い</sup> て <sup>い</sup> 行 <sup>い</sup> け <sup>い</sup> と <sup>い</sup> 言 <sup>い</sup> い <sup>い</sup> し <sup>い</sup> 人 <sup>い</sup> は <sup>い</sup> 誰 <sup>い</sup> ぞ。<sup>い</sup> 愈 <sup>い</sup> され <sup>い</sup> し <sup>い</sup> 者 <sup>い</sup> は <sup>い</sup> 其 <sup>い</sup> 誰 <sup>い</sup> た <sup>い</sup> る <sup>い</sup> を <sup>い</sup> 知 <sup>い</sup> ら

ざりき、蓋 彼處には人の衆きに因りて、イイスス隠れたり。厥 後イイスス此の人に殿に遇

いて、之に謂えり、視よ、爾 は愈えたり、復 罪を犯す勿れ、恐らくは 患 に遭うこと更に

甚 しからん。彼 往きて、イウデヤ人に、我を愈しし者はイイススなりと告げたり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) ユダヤ人の祭があったので、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があった。そこには五つの廊があった。その廊の中には、病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。〔彼らは水の動くのを待っていたのである。それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病気にかかっている、いやされたからである。〕さて、そこに三十八年のあいだ、病気に悩んでいる人があった。イエスはその人が横になっているのを見、また長い間わずらっていたのを知って、その人に「なおりたいのか」と言われた。この病人はイエスに答えた、「主よ、水が動く時に、わたしを池の中に入れてくれる人がいません。わたしがはいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです」。イエスは彼に言われた、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」。すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。その日は安息日であった。そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った、「きょうは安息日だ。床を取りあげるのは、よろしくない」。彼は答えた、「わたしをなおして下さったかたが、床を取りあげて歩けと、わたしに言われました」。彼らは尋ねた、「取りあげて歩けと言った人は、だれか」。しかし、このいやされた人は、それがだれであるか知らなかった。群衆がその場にいたので、イエスはそっと出て行かれたからである。そののち、イエスは宮でその人に会ったので、彼に言われた、「ごらん、あなたはよくなった。もう罪を犯してはいけない。何かもっと悪いことが、あなたの身に起るかも知れないから」。彼は出て行って、自分をいやしたのはイエスであったと、ユダヤ人たちに告げた。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮  
はなんぢにきす。  
爾 歸

※代式祈祷③ へ